

事業の背景・目的

クワガタムシ科の一群であるマルバネクワガタ類は、日本では琉球列島に分布する。原生的な森林に生息する大型種は3種2亜種計5タクサであるが、そのうち1種2亜種（計3タクサ）は国内希少野生動植物種に指定されている。これは、過去における森林伐採や過剰な採集圧により、絶滅の危機に瀕していることが明らかとなったためである。

このため、国内希少野生動植物種指定の3タクサを生息域外保全の目的で、またその比較のため残りの2タクサ、計5タクサについて、伊丹市昆虫館において飼育下繁殖技術の確立を試みるとともに科学的知見を集積する。



事業の概要

・生息域外保全事業

目的：国産マルバネクワガタ大型種5タクサについて、飼育（生息域外保全）個体群を維持することにより種（系統）の保存を行った。



成果

順調に累代飼育継続中、種の保存に貢献

各種幼虫の飼育温度に対する反応について、データを取得することができた。特に蛹化のトリガーとなる温度が種ごとに異なることが示唆され、貴重な知見の集積につながった。

採卵に用いるための褐色腐朽材の、人工作製の試行中である。



大きく成長した幼虫

・ファウンダー確保事業

目的：生息地における生息状況調査
飼育下繁殖を行うためのファウンダーの確保



成果

国産マルバネクワガタ大型種が分布する、奄美群島、沖縄諸島、八重山列島の計8島にて生息状況調査を行い、各個体群の詳細な生息状況が確認できた。

ヨナグニマルバネクワガタのファウンダーを採取、複数の卵を得た。

久米島では個体はおろか生息を示す痕跡も見つからなかった。